

公益社団法人日本薬剤学会 2016 年度事業計画

(2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日まで)

はじめに

1985 年に任意団体として設立された本学会は、2015 年に創立 30 周年の節目の年を迎えた。この間、2006 年に文部科学大臣より社団法人としての設立認可を 2012 年には内閣総理大臣より公益社団法人としての移行認定を受け、科学の発展とともに社会貢献を目指した活動を行うことが求められている。本学会の事業は定款に定める以下の各事業を総称して「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発、研究の振興、調査研究並びに評価により、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」として認定を受けており、理事会は別紙に詳述するこれらの事業を、公益法人としてのガバナンス体制の下に実施する。

- (1) 学術集会、研修会、講習会等の開催
- (2) 機関誌、学術雑誌、その他出版物の刊行
- (3) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (4) 国内外の関連学協会等との連絡及び協力
- (5) 研究及び調査
- (6) 薬剤学に関する学識及び技術等の認定
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

基本方針

- 1 日本の薬剤学に関するサイエンスレベルの向上を図るとともに、新規医薬品の開発および医療現場における医薬品の適正使用への取り組みを推進する。
- 2 医学・工学をはじめとする関連諸領域との連携をより緊密なものとし、学際的な研究協力を推進することによって、製剤・DDS 等における新しい技術開発に積極的に参画する。
- 3 産官学一体となった活動を通じ、医薬品の有効性と安全性を担保するための規制上の問題に関して公益的な立場から提言を行う。
- 4 薬剤師の職能の向上を目指して、国際標準的な医薬分業を推進する。
- 5 学会活動の国際化を目指して、FIP (International Pharmaceutical Federation, 国際薬学連合) などの国際学会および他国の薬剤学関連の学会との協力体制を構築する。
- 6 薬剤学の知識・技術を基盤として、機能的食品や化粧品などの開発、適正使用への取り組みを支援する。
- 7 2010 年度より発足した製剤技師認定制度の社会的認知度を向上させるとともに、各企業への製剤技術の普及・伝承に注力する。
- 8 共通の研究目的等による分野横断的なユニットであるフォーカスグループによる活動を強化する。

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

会長

- 1 APSTJ 2025 推進事業
 - 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行う。
 - 日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行う。
 - 国内外の関連学協会との交流事業を推進する。
- 2 国際標準医薬分業推進事業
 - 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進する。

副会長総務担当理事

- 1 学会賞等表彰事業
 - 学会賞選考委員会
 - タケル&アヤ・ヒグチ記念各賞選考委員会
 - 永井記念国際女性科学者賞選考委員会
- 1.1 薬師メダル
薬剤学分野の科学・技術と薬剤師職能を統合化したシステム薬剤学に関して，卓抜した業績を有する者を理事会の推薦により表彰する。
- 1.2 学会賞
薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績を有する者を表彰する。
- 1.3 功績賞
本学会の運営・発展への貢献，薬剤学教育への貢献，薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の振興への貢献を行った者を表彰する。
- 1.4 奨励賞
薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の基礎及び応用に関し，独創的な研究業績を挙げつつあり，これらの分野の将来を担うことが期待される若手研究者を表彰する。
- 1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞（西暦偶数年度に実施）
故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上並びに医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびに故アヤ夫人の功を記念し，同記念荣誉講演の講師を表彰する。
- 1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞（西暦奇数年度に実施）
薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上，医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げ，受賞を励みにして更なる活躍が期待される者を表彰する。
- 1.7 永井記念国際女性科学者賞
薬剤学領域において顕著な業績を挙げ将来も顕著な業績を上げることが期待される，国内外の現職の女性科学者を表彰する。
- 1.8 創剤特別賞
国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤を創成した者を臨時に表彰する。
- 1.9 優秀論文賞（西暦奇数年度に実施）
機関誌「薬剤学」および公式欧文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"に掲載された優秀な論文の著者を表彰する。
- 1.10 製剤の達人称号
医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，高い技術を確立した者を表彰する。
- 1.11 国際フェロー称号
薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員，本学会の国際賞を受賞した外国人研究者等を表彰する。
- 1.12 「薬と健康の週間」懸賞論文
「薬と健康の週間」への協賛として，薬学を学んでいる若い学生を対象に与えられたテーマについての論文を広く募集し，優秀な論文の著者を表彰する。

- 2 創剤開発・研究賞表彰事業
 - 旭化成各賞選考委員会
 - 2.1 旭化成創剤開発技術賞

国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰する。
 - 2.2 旭化成創剤研究奨励賞

製剤の機能化、最適な投与方法とそれに合った剤形開発、製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献した者を対象として表彰する。

渉外担当理事

- 1 学生主催シンポジウム事業
 - SNPEE 実行委員会

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と、口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として、年会において学生主催シンポジウム「SNPEE*」を開催する。SNPEEでは、未来の薬剤学発展を担う学生相互の深い理解と調和が、やがては創薬の革新を生み出す原動力になると捉え、“自らを顧み、自らを伝える”ことを根本のテーマとする。演者の学生には、自身の研究を広い視点に立って今一度顧み、その魅力を聴衆に十分に伝えるチャンスとして、この場を提供する。特別講演の先生をお招きし、本シンポジウムの講評と将来の薬剤学を担う若手研究者に向けてのメッセージをいただく。

*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution
- 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る。また、国際的情報発信を充実する。
- 3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、年会において「医薬品包装シンポジウム」（「変わりゆく医薬品包装 ～ユーザー視点からの識別性・使用性を考える～」）を開催する。
- 4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行う他、教育資料の企画、年会における「薬学教育シンポジウム」（「新制度薬学教育課程を経た博士（薬学）、博士（薬科学）を世に送り出して、今一度薬学での大学院教育を考える」（仮題））を企画実行する。

国際連携担当理事

- 1 英語セミナー事業

西村友宏氏（慶應義塾大学）を委員長、本山敬一氏（熊本大学）を副委員長とする。

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で企画する。
- 2 国際学会等協力事業
 - FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting で重要事項を審議する他、Section/SIG にメンバーを多数派遣する等、BPS の諸活動に積極的に参画する。
 - AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS の Member Organization として、Executive Committee に役員を派遣する等、アジア地域における薬科学研究の発展に寄与する。
 - 日韓合同薬剤学若手研究会

日韓合同薬剤学若手研究会に講演者を派遣する。

機関誌担当理事

- 1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行う。
- 2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と、優秀論文賞の選考を行う。

3 学会誌出版事業

3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行する。なお、2017年より「薬剤学」誌のオンライン化を促進し、2～6号はweb配信（J-STAGEでの閲覧）のみとする方向で検討を進める。

- Vol. 76 No. 3 2016年5月1日発行
- Vol. 76 No. 4 2016年7月1日発行
- Vol. 76 No. 5 2016年9月1日発行
- Vol. 76 No. 6 2016年11月1日発行
- Vol. 77 No. 1 2017年1月1日発行
- Vol. 77 No. 2 2017年3月1日発行

英文論文については、英文論文を受け付けることが可能であることから、積極的に投稿促進を図る。

3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

JDDSTへの投稿については、編集委員新体制にて進める。

技術・書籍担当理事

1 製剤技術伝承講習会事業

- 製剤技術伝承委員会

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により、滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため、座学・実習の講習会を企画運営する。今期の開催予定は次のとおり。

1.1 第19回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「経口製剤の製剤設計と製造法」

2016年6月9日-7月15日

名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

1.2 第11回製剤技術伝承実習講習会

「塩・Cocrystalのスクリーニング及び結晶多形、水和物のキャラクタリゼーション」

2016年9月1-2日

星薬科大学

1.3 第12回製剤技術伝承実習講習会

「難溶性薬物の製剤設計」

2016年9月15-16日

大川原化工機（株）

／静岡県立大学薬学部 創剤工学講座

1.4 第20回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「非経口製剤の製剤設計と製造法」

2017年1-2月を予定

会場未定

2 製剤技師認定事業

- 製剤技師認定委員会

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で、日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する。第5回までの認定試験問題と解答・解説を1冊にまとめた『「製剤技師」認定試験問題集』を昨年発刊し、より受験しやすくしたが、まだまだ大手製薬会社からの受験が少ないため、方策を模索していく。また、被認定者の学会への入会を推進するとともに、これら認定製剤技師の企業内での職能・役割アップについて相互研鑽を図れる機会の提供を検討していく。

2.1 第7回製剤技師認定試験

2016年10月22日

慶應義塾大学三田キャンパス／神戸薬科大学

3 出版委員会事業

- 出版委員会

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行う。

3.1 薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを総的にまとめたシリーズ書籍、および薬剤学専門用語集を出版することを新たに計画する。

製剤・創剤セミナー担当理事

1 製剤・創剤セミナー事業

- 製剤・創剤セミナー実行委員会

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い、医療・薬剤学に関し、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」の企画運営を行う。

1.1 第41回製剤・創剤セミナー

「医療社会のニューパラダイム ～製剤・創剤のチャレンジ～」

2016年8月25-26日

淡路夢舞台国際会議場・ウェスティンホテル淡路

公開市民講演会事業担当理事

1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画・開催する。

今期の開催予定は次のとおり。

2016年5月23日 16時～

学士會館

FG担当理事

1 FG統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として、事業・予算の管理を行い、各FGに対する助言やFG・理事会間のリエゾンを担当する。

- 【経口吸収FG】

経口吸収に関わる生体膜機能、吸収機構、体内動態、製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し、新たな経口吸収研究を開拓する。今期も合宿討論会を予定。

- 【がん治療FG】

抗がん剤の製剤的工夫に基づく新規治療法・治療技術に関する情報発信や、臨床現場と基礎研究者を結ぶリバーストランスレーショナルリサーチの啓蒙に務めたい。今期は日本医療薬学会でのジョイントシンポジウムの開催を予定。

- 【経皮投与製剤FG】

化粧品、医薬品、生活化成品、素材メーカー、大学研究者など様々な分野の研究者を集め、経皮投与製剤の理論と実際を検討し、経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図る。第8回シンポジウムを11月に都内で開催予定。

- 【経肺経鼻投与製剤FG】

吸入剤開発の基礎研究、吸入剤の吸入特性評価、製薬会社における吸入剤開発の実例、吸入剤治療に関する臨床現場での問題点について情報交換を行う。9月頃合宿討論会を予定。

- 【核酸・遺伝子医薬FG】

核酸医薬デリバリー技術の標準化に関するラウンドテーブルでの議論の成果をもとに、核酸医薬および遺伝子医薬に対するデリバリー製剤の標準化に関する議論を進める。その一環として、微粒子製剤の物性測定方法の「標準化」を念頭に、FGメンバーを中心として共通試薬を用いた評価を行い、その結果を年会等で報告する。

- 【薬物相互作用FG】

薬物相互作用予測手法の問題点、最新予測手法の医薬品開発への応用に関する議論の場を提供する。薬物相互作用に限らず、薬物体内動態の個体間変動を広く捉えて議論するためのシンポジウムを開く。他学会との共催シンポジウムを継続する（今期は日本医療薬学会年会（9月）および日本臨床薬理学会学術総会（12月）での開催を予定）。薬物動態のみならず、製剤的な工夫による回避についても議論する場を提供したい。

- 【医療ZDと完全分業FG】

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し、そのリスク管理により医療におけるZero Defectが達成されるよう、医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指す。

- **【DDS 製剤臨床応用 FG】**

年会においてラウンドテーブルを企画し、DDS 製剤のレギュレーション対応について議論する。第 32 回日本 DDS 学会学術集会での関連シンポジウムも予定している。また、メンバーの様々な経験や知識を共有化するため、合宿討論会（場所：KKR ホテル熱海、日程：未定）を開催し議論を深めるとともに「薬剤学」へのレポート寄稿等による情報発信を行う。

- **【個別化製剤 FG】**

旧 PVM FG の活動によって抽出された潜在的課題を解決する FG として活動する。具体的には製剤的選択肢が少ない小児疾患だけでなく、保護者や医療従事者における製剤的課題を解決した製剤または製剤技術を提案する。そのために小児用製剤コンソーシアムを発足し、小児医療に関するシンポジウムおよび研究会の開催を通して課題共有および解決するための枠組みを検討する。

- **【物性 FG】**

医薬品原薬、製剤原材料ならびに製剤の物性評価技術にフォーカスをあて、技術の発展や創薬/創剤への展開についての議論・提言を行う。今期は、新規レギュレーション提案のためのコンセンサス形成を目的とし、2016 年 5 月開催の日本薬剤学会第 31 年会前日に物性 FG 主催サテライトセミナーを開催する。また、若手研究者の研修・啓発・育成を目的とした研修会の開催のためのアンケート調査を行う。

- **【臨床製剤 FG】**

緩和医療薬学会を始め、その他の学会の公開シンポジウムと共催し、薬剤学会会員および緩和医療薬学会会員の緩和医療への製剤の関わりについて意見交換する。また、他 FG との合同セミナーを開催し、薬剤学会員相互の意見交換する。さらに、臨床製剤の調製の実際について、作業効率、安定性、使用しやすいデバイス、包装形態など、これまでにない視点で臨床製剤の現状を明らかにする。加えて、臨床製剤調製に関し、資格認定制度の導入の可能性について検討する。

- **【粉体プロセス FG】**

固形製剤製造の基盤技術である粉体プロセスについて、プロセスの高効率化、製剤の高機能化、高品質化を実現するための理論、技術、最近の技術動向などについて討論し、製剤技術の向上を目指す。前年度と同様に、製剤の達人や製剤認定技師との交流・技術伝承の場として合宿討論会を行う予定。

- **【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】**

2016 年度は、2015 年にも実施した会員の QbD に対する認識についてのアンケート調査を拡大して実施するとともに、行政を交えた QbD に関する講演会（2016 年秋）やモデルケースでの実習講習会（2017 年 2 月～3 月）などを企画し、最終年度に予定している QbD に関する Q&A 集作成に向けた取り組みを実施する。また、他 FG（物性 FG、粉体プロセス FG）との交流を企画する。

- **【前臨床開発 FG】**

前臨床開発に関わる諸問題、例えば原薬形態の効率的な決定法、加速試験が困難な製剤の判断法、安全性試験の製剤設計などをテーマとして、学術内容にタイムラインやリスクマネジメントのビジネス視点を含めた議論を行う。2016 年度は物性 FG と共催で、5 月の年会前日にシンポジウムを開催する。さらに AAPS の Oral Absorption FG と共催で、シンポジウムを AAPS 年会（11 月、デンバー）で開催予定。また FG 監修の書籍発行について立案を行う。

- **【モデリング&シミュレーション FG】**

薬剤学領域研究を効果的効率的に推進できるモデリング&シミュレーション技術の動向を調査し、技術の普及を目指した活動を行う。今期は、モデリング&シミュレーション技術の普及活動の一環として、第 31 年会にて初歩的な技術セミナーを実施する。

2 製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

製剤種差検討会に入会した会員（団体）が製剤設計における種差に関する経験事例の報告を行い、種差が影響する要因について討論し整理することを目的として、年 3 回を目処に事例報告会を開催する。また、

外部に公表できる事例を集めて、年1回を目処に公開シンポジウムを開催する。

制度改革担当理事

1 制度改革担当事業

- 制度改革ワーキンググループ

公益社団法人としての制度を整える。

- 1.1 本学会の代議員制度の導入を図る。また、本学会の会計事務の独立性を確保するとともに、①主体性、②会計の可視化/適正運営、経理システムの構築、③継続性の維持、④事務の効率化、適正化などに留意し、学会事務局業務のレベル向上を図る。

年会長

1 年会事業

- 年会組織委員会

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う。年会では、口頭またはポスターによる研究発表、特別講演、招待講演、各種受賞講演、各種シンポジウム、ランチョンセミナー、企業展示会等の多種多様なプログラムを設けており、定時総会もこの会期中に併催される。また、昨年に引き続きラウンドテーブルセッション形式での討論を行う。今期の開催予定は次のとおり。

1.1 第31年会

「清流から生まれる 新たな製剤・創剤の世界」

2016年5月19-21日

長良川国際会議場、岐阜都ホテル

学会運営

1 理事会

学会の業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行う機関であり、全ての理事で組織される。法人のガバナンスを担う中心的な機関である。今期の開催予定は以下のとおり。

第1回理事会	2016年4月頃
第2回理事会	2016年5月頃
第3回理事会	2016年9月頃
第4回理事会	2017年1月頃

2 評議員会および総会

総会は正会員で構成される、学会の最高の決議機関である。評議員会は総会に上程される全ての議案について審議を行う機関であり、評議員により組織される。今期の各開催予定は以下のとおり。

2.1 評議員会	2016年5月20日	長良川国際会議場
2.2 定時総会	2016年5月20日	長良川国際会議場

以上

(参考)事業別収支予算(損益ベース)一覧
2015年4月1日から2016年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業会計(公1)				
APSTJ2025推進事業	0	400,000	-400,000	
国際標準医薬分業推進事業	0	250,000	-250,000	
学会賞等表彰事業	1,100,000	2,910,000	-1,810,000	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,500,000	1,430,000	70,000	
広報委員会事業	0	150,000	-150,000	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	266,822	-266,822	
教育分科会事業	0	50,000	-50,000	
学生主催シンポジウム事業	0	200,000	-200,000	
国際学会等協力事業	0	2,400,000	-2,400,000	
英語セミナー事業	90,000	500,000	-410,000	
機関誌出版事業	1,550,000	9,550,000	-8,000,000	
「薬剤学」編集委員会事業	168,000	409,240	-241,240	
投稿論文審査委員会事業	0	5,000	-5,000	
出版委員会事業	0	400,000	-400,000	
製剤技術伝承講習会事業	10,810,000	10,307,930	502,070	
製剤技師認定事業	1,360,000	1,360,000	0	
製剤セミナー事業	9,630,000	9,630,000	0	
FG統括委員会事業	3,945,000	3,945,000	0	
公開市民講演会事業	0	400,000	-400,000	
年会事業	34,030,400	34,030,400	0	
共通	11,630,000	4,910,000	6,720,000	
小計	75,813,400	83,504,392	-7,690,992	
法人会計	11,830,000	11,010,000	820,000	
合計	87,643,400	94,514,392	-6,870,992	

収支予算書(損益計算ベース)
2016年4月1日から2017年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科目	公1	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	200,000	0	200,000
基本財産受取利息	0	200,000	0	200,000
特定資産運用益	300,000	0	0	300,000
特定資産受取利息	300,000	0	0	300,000
受取会費	11,630,000	11,630,000	0	23,260,000
正会員	6,500,000	6,500,000	0	13,000,000
学生会員	850,000	850,000	0	1,700,000
賛助会員	4,280,000	4,280,000	0	8,560,000
事業収益	63,715,400	0	0	63,715,400
学術集会・委員会等事業収益	58,535,400	0	0	58,535,400
参加費	32,705,000	0	0	32,705,000
助成金・補助金	2,520,000	0	0	2,520,000
寄付金・協賛金	3,000,000	0	0	3,000,000
セミナー共催金	3,888,000	0	0	3,888,000
講演要旨集等販売料	0	0	0	0
広告料	1,814,400	0	0	1,814,400
出展料	14,608,000	0	0	14,608,000
学会誌等出版事業収益	1,550,000	0	0	1,550,000
購読料	800,000	0	0	800,000
投稿料・別刷料	350,000	0	0	350,000
許諾料・使用料	350,000	0	0	350,000
広告料	50,000	0	0	50,000
学会賞等表彰事業収益	2,300,000	0	0	2,300,000
助成金・補助金	800,000	0	0	800,000
寄付金・協賛金	1,500,000	0	0	1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,330,000	0	0	1,330,000
受験料	870,000	0	0	870,000
認定料	460,000	0	0	460,000
雑収益	168,000	0	0	168,000
雑収益	168,000	0	0	168,000
受取利息	0	0	0	0
経常収益計	75,813,400	11,830,000	0	87,643,400
(2) 経常費用				
事業費	83,504,392		0	83,504,392
給料手当	960,000		0	960,000
臨時雇入金	3,292,000		0	3,292,000
会場費	22,784,010		0	22,784,010
旅費交通費	5,155,000		0	5,155,000
会議費	2,252,000		0	2,252,000
関連行事費	9,334,500		0	9,334,500
賞状・賞牌・副賞費	3,482,000		0	3,482,000
通信運搬費	1,843,830		0	1,843,830
ウェブサイト管理費	1,848,070		0	1,848,070
消耗品費	528,500		0	528,500
印刷製本費	10,987,100		0	10,987,100
貸借料	1,470,000		0	1,470,000
保管料	250,000		0	250,000
諸謝金	5,501,276		0	5,501,276
租税公課	2,526,082		0	2,526,082
支払負担金	1,700,000		0	1,700,000
業務委託費	9,218,958		0	9,218,958
雑費	371,066		0	371,066
管理費		11,010,000	0	11,010,000
給料手当		960,000	0	960,000
旅費交通費		300,000	0	300,000
会議費		1,500,000	0	1,500,000
通信運搬費		1,200,000	0	1,200,000
消耗品費		200,000	0	200,000
減価償却費		100,000	0	100,000
印刷製本費		900,000	0	900,000
貸借料		300,000	0	300,000
租税公課		800,000	0	800,000
業務委託費		3,050,000	0	3,050,000
公認会計士報酬		1,200,000	0	1,200,000
雑費		500,000	0	500,000
経常費用計	83,504,392	11,010,000	0	94,514,392
当期経常増減額	-7,690,992	820,000	0	-6,870,992
当期一般正味財産増減額	-7,690,992	820,000	0	-6,870,992
一般正味財産期首残高	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-7,690,992	820,000	0	-6,870,992
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	20,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	20,000,000	0	20,000,000
III 正味財産期末残高	-7,690,992	20,820,000	0	13,129,008